

夜明け前の深い闇ー60~70年代香港パチモン漫画

1970年代に入り、「龍虎門」「李小龍」という二大ストーリー漫画の大ヒットで一気に花開いた香港地元漫画。しかしその前後に、薄い著作権意識を如実に示すようなパチモン漫画が氾濫していたようです。いまは現地の漫画専門店で稀覯本きこうほん扱いですが、実際に購入した構成員・KRONOS が垣間見た、その「闇の世界」は…！？

- T 「というわけで持ってきていただいたのが、サイズ的には…」
K 「だいたい単行本サイズ。B6 ぐらい？ こういった本は裁ち切りなどもイイカゲンにやってるんじゃないかと思いますが」
T 「でも『八開』『十六開』『三十二開』といった、香港の伝統的なサイズ単位にはほぼ合っていると思います。薄装本がたしか『十六開』だから、これはその半分の大きさ、『三十二開』ですね」
K 「これらの本を手に入れた経緯ですが、香港おたくビルのスタンダード『信和中心』の中にある、古本屋としてはかなりマニアックな…『収蔵家』でしたっけ？ たしか3/Fにある」
T 「そう。店名は『収蔵家』。信和中心は漫画屋さんがかなりたくさんあって（最近は閉店するところも多いものの）、中にはけっこうマニアックなコレクター系の店もあります、そのひとつが『収蔵家』」



「収蔵家」の店頭

- K 「店先には表紙が茶色に変色したような古い漫画が貼り付けてあったりもするんですが、そこで最初に見つけた本がこの、表紙が日本の『キャプテン・スカーレット』劇画の模写であろう本。いやもう、香港漫画ファンであると同時に特撮ファンでもある身としては見逃すわけにいかず、つい買ってしまいました……100HK\$ 以上しましたけど」

香港独特の紙サイズ表記法。八開、十六開、三十二開…と倍数ごとに半分のサイズになる。「十六開」はB5判とほぼ同じ。

訪店時のレート
(2015/7月):
1HK\$ = 約 16円

星球怪侠



T「この表紙の赤いマント・赤い帽子が？」
 K 『『キャプテン・スカーレット』』の当時出た劇画です。作者は忘れまじけど、日本での劇画化作品のコピー。っていうか、たぶん模写です」

T 『『キャプテン・スカーレット』』というのは？」

K 『『サンダーバード』』の配給会社・ITCが次に放送したイギリスの人形劇ドラマです。1967年、全26話。日本では昭和43年ごろに放送されました」

T 「1968年ですね」

K 『『サンダーバード』』はイマイ製プラモデルなどが大ヒットしたんで、これも期待を背に始まったけど、大コケしてイマイが一度つぶれそうになった」

T 「(苦笑)」

K 「そんな『キャプテン・スカーレット』が表紙の本を見つけてしまった。それで勇んで買ったんだけど、中身はそれと全く関係ない別の作品でした。タイトルはよくわからないけれど、おそらく日本漫画の模写かコピー。残念ながらこの表紙と全く違っていた」

T 「はい。開けてみたら一切『キャプテン・スカーレット』のコミカライズではなかったわけですね」

K 「はい…。それでも結局同時にもうひとつ、これも買ってしまいました。(と、本を出す)ウルトラマンです」

T 「ほー。『超人V ULTRAMAN V 恐怖魔星』というタイトルですが」

